日本運動器理学療法学会レジストリー（JPTHD）構築に関する研究について

研究機関　　下関リハビリテーション病院　リハビリテーション科
研究責任者　荒木　隆博

このたび下関リハビリテーション病院　リハビリテーション科では、太ももの骨である大腿骨（脚の付け根部分）の骨折に対する手術を受けた患者さんのリハビリテーションに関する診療情報を用いた研究を実施しております。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、 患者さんのプライバシーの保護については法令等を遵守して研究を行います。

あなたの診療情報について、本研究への利用を望まれない場合には、研究担当者にご連絡ください。

1. 研究の目的　及び　意義

太ももの骨である大腿骨（脚の付け根側）の骨折は、生命予後や日常生活動作に大きく影響を及ぼすとされ、寝たきりや要介護状態に陥る原因の１つと言われています。骨折後の要介護状態と再転倒を回避するために、術後のリハビリテーションが重要であり、その経過や効果を評価していくことが必要だと考えています。しかし、その全国規模の全容を捉えられるデータベースがまだありません。全国の理学療法士が情報を共有できるシステムを作り上げることは、有効なリハビリテーションや評価を科学的に確立するために大変有用です。日本運動器理学療法学会が作成した大規模データベースに参加、協力し、リハビリテーション医療の発展に寄与したいと考えています。

2. 研究の方法

1) 研究の対象

下関リハビリテーション病院倫理委員会の実施許可後～2026 年 12 月 31 日の間に下関リハビリテーション病院　リハビリテーション科において、大腿骨近位部骨折術後の理学療法を受けられた 18 歳以上の方を対象とします。

2) 研究実施期間

下関リハビリテーション病院倫理委員会の実施許可後～2027 年 3 月 31 日

3) 研究方法

通常のリハビリテーションで得られた情報をインターネット上のデータベースに登録します。

4) 使用する情報

個人を特定されないように処理した上で付与した ID、性別、受傷時年齢、身長、体重、受傷前住居、受傷前歩行能力、受傷側、骨折型、術式、手術待機日数、転帰先、既往歴、認知機能障害、リハビリテーション介入状況、移動自立度、歩行能力、運動機能評価、など。患者さん個人が特定できないよう、これらの情報は完全に匿名化された状態でデータベースへ提出されます。

5) 診療情報の保存

登録されたデータはデータベース管理者（日本運動器理学療法学会）の責任下に保存されます。保存期間は本研究終了（あるいは中止）後 5 年間とします。

6) 研究計画書の開示

研究に関する情報（研究計画書等）を日本運動器理学療法学会ホームページに公開します。
（https://www.jspt.or.jp/jsmspt/）

7) 研究成果の取扱い

ご参加頂いた患者さんの個人情報がわからないようにした上で、有効な術後リハビリテーションと評価についての協議、他の関連学会との連携、学会または学術論文にて公表する予定としています。

8) 問い合わせ・連絡先

この研究についてご質問等ございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記にお申し出ください。情報の使用を断られても患者さんに不利益が生じることはありません。なお、研究参加拒否の申出が、既に解析を開始又は結果公表等の後となり、当該措置を講じることが困難な場合もございます。その際には、十分にご説明させていただきます。

下関リハビリテーション病院　リハビリテーション科
研究責任者　荒木　隆博
Tel. 083-232-3205（総務）

9) 外部への情報の提供

保存された情報等は他の医学研究への利用を目的に提供されることがあります。その際には提供の可否について日本運動器理学療法学会理事会、本研究事務局の意見を聞き、適切と判断された場合に限り提供します。提供されるデータは、データベースに登録・保管されている情報で、研究に参加して下さった患者さんの個人を特定できる情報は含まれていません。

10) 研究組織

＜研究代表者＞
聖路加国際病院　リハビリテーション科
真下翔太
〒104-8560 東京都中央区明石町 9-1　Tel. 03-3541-5151

＜研究事務局＞
一般社団法人　日本運動器理学療法学会
東裕一（担当理事、南越谷病院）
真下翔太（研究代表者、聖路加国際病院）